

【科研費応募支援ニュースレターNo.40】 発信日 250805
タイトル_児島先生の科研費獲得セミナーを視聴して

教育職員各位

URA 高木敦子

いつもお世話になっております。URAの高木敦子です。
科研費の公募が開始されました。産研事務室からのメール（7月15日14:47）のとおり、学内締め切りは8月27日（水）（ロバストジャパンのレビュー支援利用者の場合は9月8日（月））となっております。

令和7年6月16日開催の『外部講師による「令和8年度科研費 獲得セミナー」』と6月24日、7月1日、8日、15日、22日開催の『令和8年度科研費 応募支援 学内講師による科研費セミナー』の配信をご希望されるお声も複数いただいております。現在、オンデマンドでご視聴いただけるよう準備を進めております。準備が整い次第、産研事務室から皆様にお伝えいたします。授業などで、セミナー参加が難しかった先生方にも是非、ご視聴いただきたく、よろしく願いいたします。

7月23日に、羊土社主催の児島将康先生（『科研費 獲得の方法とコツ』の著者）の『科研費獲得の方法とコツ：実例からつかむ、より良い申請書の書き方と応募戦略』を視聴しました（質疑応答含めて2時間40分）。一般に向けたセミナーですので、個人的に視聴された先生もおられるかもしれません。今からでしたら、オンデマンド配信のみですが、羊土社のサイトから申し込むと視聴できます（有料）。

https://www.yodosha.co.jp/kakenhi/seminar/seminar_grant_for2025.html

本メールでは、セミナーの内容の一部、以下<2>と<3>の重要点と思われるところを要約して、お伝えしたいと思います。なお、講師のご説明のニュアンスを伝えるために、当日の語り口やスライド表現をそのまま反映しています。

セミナーの流れは、以下のとおりでした。

- <1、 科研費の現状>
- <2、 申請書の流れに沿った重要チェックポイント>
- <3、 その他のチェックすべきポイント、基盤 AB へのステップアップ、挑戦的研究への挑戦>
- <4、 （支援者向け）申請書のチェックの仕方>

- (1) 研究計画調書の記載項目については、各項目の枠内に記載されていることを、抜かさずに必ず書くこと。（URA_順番も変えない方がよいと思います）
- (2) 分けて書けるところは、分けて書く。分けて書くときは、必ず見出しをつける。

例えば、(1)本研究の学術的背景や本研究の着想に至った経緯、研究課題の核心をなす学術的「問い」のところは、「本研究の学術的背景」、「本研究の着想に至った経緯」、「研究課題の核心をなす学術的「問い」」と小分けにして、小見出しを付けて記載する。

- (3) 「概要」は一番最後に書くこと
「概要」には、「背景と「問い」」、「目的」、「展開・応用」を書くこと。

(今年の外部講師の岡野恵子先生のセミナーでは、最初を書いて、自分自身のガイドとしても良いが、最後に本文内容との整合性を確認することと言われていました。)

- (4) 「研究の学術的背景や着想に至った経緯」
「学術的背景」には申請者以外の研究者による研究、「着想に至った経緯」には申請者のこれまでの研究を意識して書くとよいとのこと。この中でどのような「問い」が浮かびあがってきたのかについて、「研究課題の核心をなす学術的「問い」」のところに記載することになる。

- (5) 学術的「問い」
「問い」がどこに書かれているか、よくわかるように示すこと。「問い」を「問い」として、明確に書くこと。
例えば、「研究課題の核心をなす学術的「問い」は〇〇である。」といった書き方など。

- (6) 「何をどのように、どこまで明らかにしようとするのか」
個々の実験（調査）を行う目的を書いてから、研究手技をできるだけ具体的に書く。

審査委員がこの研究計画が実現可能かどうかを判断する重要記載項目は以下のとおり。

「研究方法」（本項目）：研究計画調書 1-(4)

「準備状況」：研究計画調書 1-(5)

「応募者の研究遂行能力及び研究環境」：研究計画調書 2-(1)・(2)

- (7) 「準備状況」
採択されてから研究をスタートするのではなく、すでに研究が進みつつあり、興味深い結果が出始めているということを示すのが大事。

- (8) 「応募者の研究遂行能力及び研究環境」
論文リストだけでなく、簡単な解説を書き、申請研究計画との関連を示す。昔の重要な論文だけでなく、最近（ここ2-3年、せめて5年）の論文も記載することが重要。今回の研究計画に必要な実験や調査の手法をマスターしていることも論文で示す。

(9) 申請書には図をいれるのが望ましい。図などモノクロ印刷しても見やすいかを必ず印刷して確認すること。

(10) 応募区分（分野）は非常に重要

申請書の内容を一番よく理解してくれる分野に応募すべき

KAKEN データベースを活用して調べる。申請しようとしている区分でどんな課題が採択されているか。自分のキーワードはどの区分で採択されているか等。

(11) 基盤研究 A B へのステップアップ

基盤研究 C/若手研究に比べて頁数が増える。増えたページ数は、研究方法や準備状況を充実するために使用すべき。（背景や経緯などを増やさない）

とくに KAKEN データベースを活用し、申請予定の区分における競合状況について、積極的に情報を収集することが重要。

- ・ 該当区分において、現在、最終年度をむかえている研究代表者
- ・ 前年度、または前々年度に採択課題が終了し、その後、新たに採択されていない研究代表者

これらの研究者は、再度、同じ区分で申請する可能性が高いと想定されるため、競合となる可能性がある。ご自身の研究業績や研究内容と比較分析することは、申請戦略を検討する際の参考になる。

最後に、児島先生は、ご経験から、「あきらめずに応募していけば、必ず採択される。研究目的と研究方法をしっかりと書けば採択される可能性が高い。」

と、述べられていました。いつもこのように励まして下さいます。

なお、児島先生のセミナーでは、申請書の修正前後の事例を多くお示しいただきましたが、ここでは、割愛いたしました。

以上です。

今後も科研費申請や研究活動に関する情報を共有してまいります。ご不明な点、ご意見・ご要望等がございましたら、お気軽に URA までお知らせください。どうぞよろしくお願いいたします。

本学 web サイト【研究・社会連携】科学研究費助成事業】ページ内に、科研費の応募支援や研究支援に関する情報が掲載されています。

https://www.osaka-sandai.ac.jp/research/grantinaid_scientific_research.html
【ID: kenkyu パスワード: sanken3001】